

学士課程の教育目標と入学者受入れの方針

文学部

教育目標（人物養成上の目的）

文学部は、歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー AP）と入学制度

教育目標を達成するために、文学部で求めているのは、次のような人物である。

- (AP1) **【知識・技能】** 高等学校の教育課程で学ぶ、専門研究に必要な基礎的知識をもつ。
- (AP2) **【思考・判断・表現】** 学習・研究対象を思索・考察し、自分の考えを的確に表現する。
- (AP3) **【主体性・多様性・協働性】** 自発的な関心から問題を見出し、他者と協働もしつつ課題の克服につとめる。
- (AP4) **【関心・適性】** 文献などの資料を読み込み、人間について深く考えようとする意欲をもつ。

入学制度	選考方法	(AP1) 知識・技能	(AP2) 思考・判断・表現 注1: 主体性・多様性・協働性	(AP3) 主体性・多様性・協働性	(AP4) 関心・適性	各入学制度のねらい
対応する DP (※ 1)		①・②	①・③	②・③	④・⑤	
総合型選抜入試 【総合型選抜】	エントリーシート		○	◎	◎	本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった多様な学生を、学科の求める人物像との適合性を重視して広く受け入れる。(エントリーシート、小論文またはレポート、学科ワーク（講義・グループワーク（該当がある場合のみ））、面接等による試験。(※ 2))
	小論文またはレポート	○	◎			
	学科ワーク (講義・グループワーク)		○	◎	◎	
	面接		○	◎	◎	
公募制推薦入試【学校推薦型選抜】 (小論文型) (基礎能力試験型)	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		高等学校までの学びにおいて基礎学力を身につけた学生を、出身学校長の推薦に基づいて広く受け入れる。(出身学校における成績と選考試験との総合評価。選考試験＝小論文型：小論文による試験。基礎能力試験型：マークシート方式の教科試験(資格・検定試験の結果の充当を含む)。)
	小論文	○	◎			
	基礎能力試験	◎	○			
指定校制推薦入学制度 【学校推薦型選抜】	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、本学から依頼した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦に基づいて受け入れる。
	面接		○	◎	◎	
一般入試【第1期】【第2期】 【一般選抜】	教科	◎	○			高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識をもつ学生を広く受け入れる。(一般入試【第1期】【第2期】：マークシート方式の教科試験。一般入試【大学入学共通テスト利用入試】：大学入試センターの大学入学共通テストを利用したマークシート方式の教科試験。)
一般入試【大学入学共通テスト利用入試】 【一般選抜】	教科					

◎：特に対応している ○：対応している

社会学部

教育目標（人物養成上の目的）

社会学部は、現代社会の諸課題に向き合うことを通して、地域社会など身近な場において、異なる他者と敬い合いながら生きることのできる世界を構築する構想力と実践力を身につけた人物の養成をめざす。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー AP）と入学制度

教育目標を達成するために、社会学部で求めているのは、次のような人物である。

- (AP1) **【知識・技能】** 高等学校の教育課程で学ぶ基礎的知識をもつ。
- (AP2) **【思考・判断・表現】**
 - 日本語の的確な読解力を有し、自分の考えを適切に文章化する能力をもつ。
 - 社会や人間に関する諸事象を理論的・実践的に学んでいくための思考力と実行力をもつ。
- (AP3) **【主体性・多様性・協働性】** 社会や人間の多様性を尊重し、主体性をもって他者との協働を進める意欲をもつ。
- (AP4) **【関心・適性】** 社会や地域の諸問題をフィールドワークや文献調査などから多角的に探究し、社会課題の解決のために積極的に貢献する意欲をもつ。

入学制度	選考方法	(AP1) 知識・技能	(AP2) 思考・判断・表現 注1: 主体性・多様性・協働性	(AP3) 主体性・多様性・協働性	(AP4) 関心・適性	各入学制度のねらい
対応する DP (※ 1)		①・②	①・③	②・③	④・⑤	
総合型選抜入試 【総合型選抜】	エントリーシート		○	◎	◎	本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった多様な学生を、学科の求める人物像との適合性を重視して広く受け入れる。(エントリーシート、小論文またはレポート、学科ワーク（講義・グループワーク（該当がある場合のみ））、面接等による試験。(※ 2))
	小論文またはレポート	○	◎			
	学科ワーク (講義・グループワーク)		○	◎	◎	
	面接		○	◎	◎	
公募制推薦入試【学校推薦型選抜】 (小論文型) (基礎能力試験型)	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		高等学校までの学びにおいて基礎学力を身につけた学生を、出身学校長の推薦に基づいて広く受け入れる。(出身学校における成績と選考試験との総合評価。選考試験＝小論文型：小論文による試験。基礎能力試験型：マークシート方式の教科試験(資格・検定試験の結果の充当を含む)。)
	小論文	○	◎			
	基礎能力試験	◎	○			
指定校制推薦入学制度 【学校推薦型選抜】	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、本学から依頼した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦に基づいて受け入れる。
	面接		○	◎	◎	
一般入試【第1期】【第2期】 【一般選抜】	教科	◎	○			高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識をもつ学生を広く受け入れる。(一般入試【第1期】【第2期】：マークシート方式の教科試験。一般入試【大学入学共通テスト利用入試】：大学入試センターの大学入学共通テストを利用したマークシート方式の教科試験。)
一般入試【大学入学共通テスト利用入試】 【一般選抜】	教科					

◎：特に対応している ○：対応している

目的

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、仏教の精神に則り、人格を育成するとともに、仏教並びに人文に関する学術を教授研究し、広く世界文化に貢献することを目的とする。

教育学部

教育目標（人物養成上の目的）

教育学部は、純真な人格形成を目指す高い教職意識と責任感を持ち、社会的常識や対人関係能力を備えて子どもたちの声に耳を傾けることのできる、慈育の精神に富んだ専門職業人の養成をめざす。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー AP）と入学制度

教育目標を達成するために、教育学部で求めているのは、次のような人物である。

(AP1) (知識・技能) 高等学校の国語・数学等を着実に習得し、読解力・表現力等の相当の学力をもつ。

(AP2) (思考・判断・表現) 日本語を使用して、自分の考えを的確に表現することができる。

(AP3) (主体性・多様性・協働性)

- ・人間関係の重要性について認識し、よりよい人間関係を構築しようとする姿勢・態度をもつ。
- ・乳幼児・児童と積極的にかかわろうとする意欲をもつ。

(AP4) (関心・適性) 教育・保育問題に関心をもち、教育・保育実践への意欲にあふれている。

入学制度	選考方法	(AP1) 知識・技能	(AP2) 思考・判断・表現	(AP3) 主体性・多様性・協働性	(AP4) 関心・適性	各入学制度のねらい
対応する DP (※ 1)		①・②	①・③	②・③	④・⑤	
総合型選抜入試 【総合型選抜】	エントリーシート		○	◎	◎	本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった多様な学生を、学科の求める人物像との適合性を重視して広く受け入れる。(エントリーシート、小論文またはレポート、学科ワーク(講義・グループワーク(該当がある場合のみ))、面接等による試験。(※ 2))
	小論文またはレポート	○	◎			
	学科ワーク (講義・グループワーク)		○	◎	◎	
	面接		○	◎	◎	
公募制推薦入試【学校推薦型選抜】 (小論文型) (基礎能力試験型)	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		高等学校までの学びにおいて基礎学力を身につけた学生を、出身学校長の推薦に基づいて広く受け入れる。(出身学校における成績と選考試験との総合評価。選考試験＝小論文型：小論文による試験。基礎能力試験型：マークシート方式の教科試験(資格・検定試験の結果の充当を含む)。)
	小論文	○	◎			
	基礎能力試験	◎	○			
指定校制推薦入学制度 【学校推薦型選抜】	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、本学から依頼した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦に基づいて受け入れる。
	面接		○	◎	◎	
一般入試【第1期】【第2期】 【一般選抜】	教科	◎	○			高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識をもつ学生を広く受け入れる。(一般入試【第1期】【第2期】：マークシート方式の教科試験。一般入試【大学入学共通テスト利用入試】：大学入試センターの大学入学共通テストを利用したマークシート方式の教科試験。)
一般入試【大学入学共通テスト利用入試】 【一般選抜】	教科					

◎：特に対応している ○：対応している

国際学部

教育目標（人物養成上の目的）

国際学部は、グローバル社会において、建学の精神に基づいて自己のアイデンティティを確立し、多様な他者の存在に気づき、寄りそうことのできる人物の養成をめざす。

入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー AP）と入学制度

教育目標を達成するために、国際学部で求めているのは、次のような人物である。

(AP1) (知識・技能) 高等学校で履修する国語、地歴・公民、数学、外国語などについて、高等学校卒業相当の知識をもち、国際的・文化的事象に関する基礎的資料を読解できる。

(AP2) (思考・判断・表現) 国際的・文化的事象について資料をもとに考察し、自分の考えを日本語で的確に表現することができる。

(AP3) (主体性・多様性・協働性) 複数の外国語を学習する意欲と、異文化を理解し他者と共生しようとする意志をもつ。

(AP4) (関心・適性) 世界の文化、言語、歴史について明確な関心と探究心をもつ。

入学制度	選考方法	(AP1) 知識・技能	(AP2) 思考・判断・表現	(AP3) 主体性・多様性・協働性	(AP4) 関心・適性	各入学制度のねらい
対応する DP (※ 1)		①・②	①・③	②・③	④・⑤	
総合型選抜入試 【総合型選抜】	エントリーシート		○	◎	◎	本学の教育理念をよく理解し、本学で学ぶことに強い意欲をもった多様な学生を、学科の求める人物像との適合性を重視して広く受け入れる。(エントリーシート、小論文またはレポート、学科ワーク(講義・グループワーク(該当がある場合のみ))、面接による試験。(※ 2))
	小論文またはレポート	○	◎			
	学科ワーク (講義・グループワーク)		○	◎	◎	
	面接		○	◎	◎	
公募制推薦入試【学校推薦型選抜】 (小論文型) (基礎能力試験型)	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		高等学校までの学びにおいて基礎学力を身につけた学生を、出身学校長の推薦に基づいて広く受け入れる。(出身学校における成績と選考試験との総合評価。選考試験＝小論文型：小論文による試験。基礎能力試験型：マークシート方式の教科試験(資格・検定試験の結果の充当を含む)。)
	小論文	○	◎			
	基礎能力試験	◎	○			
指定校制推薦入学制度 【学校推薦型選抜】	高等学校における学習成績の状況	○	○	○		本学の教育理念をよく理解し、内発的な関心から思索しようとする個性豊かな学生を、本学から依頼した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦に基づいて受け入れる。
	面接		○	◎	◎	
一般入試【第1期】【第2期】 【一般選抜】	教科	◎	○			高等学校で履修する科目について、高等学校卒業相当の知識をもつ学生を広く受け入れる。(一般入試【第1期】【第2期】：マークシート方式の教科試験。一般入試【大学入学共通テスト利用入試】：大学入試センターの大学入学共通テストを利用したマークシート方式の教科試験。)
一般入試【大学入学共通テスト利用入試】 【一般選抜】	教科					

◎：特に対応している ○：対応している

※ 1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー DP）

本学が学位プログラム（各学科）ごとに定めている卒業時に学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）

詳細はホームページ参照のこと

※ 2 総合型選抜入試の各学科の選考方法の詳細は P.10 ～ 12 を参照のこと



学科の目標・学科が求める学生像

真宗学科

学科の教育目標 (学則)	真宗学科は、釈尊の教説や親鸞の著作などに依り、自己を問い、人間を問うとともに、親鸞思想とその思想的背景の研究を進め、仏教精神に基づく豊かな人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	人間にとっての真実とは何か、他者と関わりながらどのように生きるべきか、親鸞を中心に、同様の課題を持つさまざまな思想を研究することを通して、現代社会における人間のあり方を探究し、広く国際社会に視野を開いて生きていく人物の育成をめざします。
学科が求める 学生像	真宗学科では次のような人物を求めます。 ① 人間にとっての真実とは何かという問いに向き合い、自分自身の課題として、人間を探究する意欲を持っている。 ② 高等学校までに修得すべき国語の基礎学力を備え、真宗の教えや歴史に関する文献を粘り強く読解しようとする態度を持っている。 ③ 日本と世界における諸問題に関心を持ち、共に生きる社会の創造をめざして、考察する態度を持っている。

仏教学科

学科の教育目標 (学則)	仏教学科は、仏教の専門的な知見を通して深く人間を理解し、現代社会のさまざまな問題の根底に存在する課題を見抜いて、他とともに生きようとする人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	アジアの宗教と文化の基礎となった仏教を通して、現代社会が抱えるさまざまな問題の根底にある人間の課題を見つめ、それらを自分自身の課題としながら他者と共に生きることを願う人物の育成をめざします。
学科が求める 学生像	仏教学科では次のような人物を求めます。 ① インド、チベット、スリランカ、タイ、中国、韓国朝鮮、日本などアジア諸国に広がった仏教の思想・歴史・文化や、仏教と現代社会との関わりについての興味と学習意欲を有している。 ② 仏典を読解し、参考資料を理解する上で必要な総合的な日本語能力や外国語能力を持ち、仏教の歴史の背景となっている世界史と日本史の基本的な知識を有している。 ③ 本学科での授業に意欲的に出席し、卒業に必要な単位を修得し、学問としての仏教についての卒業論文を完成させようという強い意志と実行力を有している。

哲学科

学科の教育目標 (学則)	哲学科は、人間や世界にかかわる根本的な問題を東西の思想伝統を踏まえつつ考究し、多様かつ柔軟な視点と論理的思考力を培い、現代の諸問題に対処することのできる人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	「人間とは何か」「よく生きるとはどういうことか」「人間と世界を超えるものがあるのか」といった人間や世界に関わる根本的な問題を東西の思想的な伝統を踏まえながら論理的に考察し、現代の諸問題に対応することのできる人物の育成をめざします。
学科が求める 学生像	哲学科では次のような人物を求めます。 ① 高等学校までに修得すべき十分な基礎学力を持ち、とくに英語に関しては外国語文献を読むための充実した力を有している。 ② 人間の認識や世界のあり方、心理、倫理、宗教といった哲学的諸問題を粘り強く論じる論理的思考力と、自分の考えを的確に表現する文章力を身につけている。 ③ 私たちを取り巻くさまざまな問題に関心を持ち、他人と意見を交わしながら自分の考えを客観的に見直し、その考えを発言し、深めていくことに強い意欲を持っている。 ④ 本学科のカリキュラムを十分に理解し、学ぶ目的をはっきり持っている。

歴史学科

学科の教育目標 (学則)	歴史学科は、日本と世界の歴史及びそれと不可分な諸宗教・思想、とくに仏教を対象とした歴史学研究を通じて、現代社会で直面するさまざまな課題を多角的かつ的確に分析し、それに対処しうる人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	日本と世界の歴史を、人々の生活と深く関わる諸宗教（とくに仏教）や思想を視野に入れながら研究を進めます。文献の読解や文化財の調査などから集めた情報に基づいて過去を再構築する歴史学研究を通して、多くの情報を分析して課題について考えていく力を養っていきます。
学科が求める 学生像	歴史学科では次のような人物を求めます。 高等学校までに修得すべき基礎学力を身につけ、歴史に関する基礎知識と本学科で学ぶ目的意識を有している。そのうえで、日本と世界の歴史と文化に深い関心を持ち、文献を読み、史跡を訪ね、文化財を調査するなど歴史学の方法を学び、現代社会を的確に分析する力を身につけようとする強い意欲を持っている。

文学科

学科の教育目標 (学則)	文学科は、日本と中国の言葉や文学を研究対象とし、テキストの精読・分析・創出を通して言語感覚の錬磨と多様な知識の修得に励み、人間と社会への理解力及び洞察力を持った人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	どのような言葉で自分を伝えるか、どのように言葉を読んで他者を理解するか、現代の小説、古典の物語、中国の書物などさまざまな言葉に向き合い、さらに言葉の宝庫である図書館について学ぶことによって、書物と言葉のエキスパートの育成をめざします。
学科が求める 学生像	文学科では次のような人物を求めます。 ① 高等学校までに修得すべき、国語の基礎学力を持っている。 ② 日本と中国の文学をはじめとする小説・詩歌・戯曲など、言葉によって表現されたものに興味があり、それらについて考え、討論することに関心がある。 ③ われわれとはどのような存在か、言葉とどのような関係を結んでいるかを、文学作品から読み取ろうとする姿勢を持っている。 ④ 自分の感じたこと考えたことを言葉にして表現することに関心があり、小説や詩を書いてみたいと考えている。

学科の目標・学科が求める学生像

大谷大学では、学科の教育目標（人物養成上の目的）と入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて、「学科が求める学生像」を定めています。

社会学部

現代社会学科

学科の教育目標 (学則)	現代社会学科は、現代の多様な社会文化事象を対象に、社会学と関連学問の視点と方法に基づく主体的探究学修を進めることを通じて、現代社会の特性と自らの立ち位置を的確に把握し、人々の間でビジョンとルールを提案・交渉することができる人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	現代社会の問題を、公共社会、現代文化、人間関係という社会学の枠組みを通して、現代社会とはどういうものか、その社会で自分はどのように生きるべきかを考え、社会問題の改善や解決に向けての考え方や方法を提案し、説明できる人物の養成をめざします。
学科が求める 学生像	現代社会学科では次のような人物を求めます。 ① 現代人の行動や心理、現代の社会・文化事象に関する本や新聞記事を読んでおり、その経験から、自身が入学後、探究したい事柄や問題について、筋道を立てて説明することができる。 ② 人間や社会のあり方について深く考える内容の文章に粘り強く取り組み、一定の理解を得るために必要な基礎学力（特に、「国語」・「英語」・「地歴公民」）を有している。 ③ 一般社会における情報技術の必要性や役割を理解しており、社会統計や社会調査（フィールドワーク）の実習を経験することを通じて、情報やデータを収集・分析する力を高めたいと考えている。

コミュニティデザイン学科

学科の教育目標 (学則)	コミュニティデザイン学科は、身近な地域コミュニティで生起する諸課題に対して、「人と人をつなぐ」実践手法を進めることにより、広い領域内容から「コミュニティ」のこれからを「デザイン」していく理論とスキルを身につけた人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	私たちが暮らす地域では、経済の衰退や過疎化、高齢者の介護や育児不安、環境破壊など様々な課題が存在しています。こうした地域の課題を解決するカギとなるのは人と人とのつながり、つまりは支え合いのコミュニティです。コミュニティデザイン学科では、住民参加や行政による地域政策、情報、メディアの活用、子どもや高齢者の居場所づくりなど、人と人とのつながる多様な場づくりに必要な知識や技術を身に付けます。
学科が求める 学生像	コミュニティデザイン学科では次のような人物を求めます。 高等学校までの基礎学力を十分に身につけたうえで、地域社会のさまざまな事柄に関心を持ち、他者や地域社会、福祉課題に積極的にに関わり、そこに生じている諸問題の解決方法を考えようとする意欲を持っている。

教育学部

教育学科 初等教育コース

学科の教育目標 (学則)	教育学科初等教育コースは、仏教精神に基づく宗教的情操を身につけ、インクルーシブ教育など社会的な要請に応えようとする責任感を持ち、慈しみの心を持って他者と接することのできる、子どもの「育ち」を担う教育者の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	仏教精神に基づく慈しみの心をも身につけ、思いやりの気持ちを持って子どもたちに寄り添える教員を育てます。また、今日の学校や教育における課題に、他の教職員や、保護者・地域の方々とも協力しながら取り組み、子どもたちの学びと心の成長を支援できる教員の養成をめざします。
コースが求める 学生像	教育学科初等教育コースでは次のような人物を求めます。 ① 高等学校までに修得すべき基礎学力、とくに小学校教諭として求められるすべての教科にわたる学力を有する。 ② 高いコミュニケーション力を有し、自分の意見を明確に説明すると同時に、他者の意見を聞くことができる。 ③ 児童に積極的にに関わり、児童一人ひとりを理解し向き合おうとする気持ちを常に有し、教壇に立つことを強く望んでいる。 ④ 教員にふさわしい優れた人間性と倫理の高潔さを持っている。

教育学科 幼児教育コース

学科の教育目標 (学則)	教育学科幼児教育コースは、仏教精神に基づく宗教的情操を身につけ、インクルーシブ教育など社会的な要請に応えようとする責任感を持ち、慈しみの心を持って他者と接することのできる、子どもの「育ち」を担う保育者の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	自分自身と向き合い、慈しみの心を持って他者や社会そして自然と豊かな関係を築ける人格の涵養をめざしています。このことを基盤として、一人ひとりの子どもに寄り添い、多様化する社会的ニーズに他の保育者や保護者・地域の方々と協働しながら対応できる、優しさで責任感溢れる保育者の養成を大切にしています。
コースが求める 学生像	教育学科幼児教育コースでは次のような人物を求めます。 ① 幼稚園教諭・保育士の職に就くことを強く望んでいる。 ② 高等学校までに修得すべき基礎学力を着実に身につけ、高次の読解力・表現力・洞察力（推理力）を有している。 ③ 教育・保育・福祉・人権の諸問題に強い関心と探究する意欲を持っている。 ④ 子どもと積極的にに関わり、一人ひとりの子どもを理解しようとする意欲・態度を有している。 ⑤ 他者との相互理解を深めようとする姿勢を示し、よりよい人間関係を構築しようとする態度と高いコミュニケーション能力を有している。

国際学部

国際文化学科

学科の教育目標 (学則)	国際文化学科は、欧米とアジア地域を研究対象とし、その文化事象を考究することで自己と他者理解に努め、さまざまな背景をもつ人びとに寄りそい、仏教的な「相互敬愛」を実現する人物の養成をめざす。
学科の教育目標 (解説)	欧米とアジア地域の文化を学ぶことで、広い視野と柔軟な思考力を養い、自らを見つめ直しながら、さまざまな背景をもつ人びとに寄りそい、互いを尊重して生きることができ人物の育成をめざします。
学科が求める 学生像	国際文化学科では次のような人物を求めます。 ① 世界の文化、言語、歴史に関心を抱いて自発的に学ぶとともに、自分の考えや興味の対象について明確に説明することができる。 ② 「英語」・「国語」をはじめとした十分な基礎学力を持っている。 ③ ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語のいずれかを第二外国語として学ぶ強い意欲を持っている。 ④ 他者とのコミュニケーションを通じて視野を広げ、自分を成長させる意欲を持っている。